

仕合わせの和

第233号

令和3年 8. 1
(毎月1日発行)

初めての大手術

住職 谷川寛俊

私の人生の中で最大のピンチを体験させていただきました。

6月25日に膵臓(すいぞう)三分の二・脾臓(ひそぞう)全摘という大手術を受けました。

病名は『膵体尾部膵管内乳頭液性腫瘍』(PANC)と言う長い名前がついています。

実は、今から15年前、黒部市民病院で人間ドックを受けた時、膵臓に嚢胞(のうほう)というゼリー状のものが付着していることが分かりました。

今の段階では悪性ではないと思うので、様子を見ていきましよう、という事で経過観察することになりました。

その後CTやMRI・ペット診断等を受けたりしましたが、その時も異常なく過ごしてきました。

一年に一度のペースで、検査を受けてきたのですが、昨春秋ごろの検査結果で、嚢胞の中に「結節」という固くなったものが出来ており、嚢胞も30mmを超え、それに加え膵管も部分によって11mmになってきていました。

医学的には、主膵管が10mmを超えると癌化する可能性があるので、手術を考えるラインのようです。

主治医から今の段階での切除をうながされ、私は即手術を選択しました。

手術日まで何度も検査を受けに通いました。

そして6月24日、いよいよ県立中央病院に入院し、翌25日が手術日です。

奇しくもこの日は私の73歳の誕生日。何かの巡り合わせでしょうか？・・・。

手術は初めて、しかも今回私が受けた手術は、アメリカ製のロボット「ダ・ヴィンチ」の操作で進められるという事。ダ・ヴィンチ導入は県内では、県中と大学病院の二カ所のみです。膵臓の手術とすれば私が3例目になるそうです。

導入予定は今年1月でしたがコロナ禍の為、遅れて5月に開始されたようです。

ロボットでの手術は人間の手で行うより寸分の狂いもなく、安全との事。お腹に5カ所穴を開け、3D画像を見ながらの操作(手術)になります。膵臓は胃の真裏にある臓器で、その切除となるとかなり高度な技術が必要です。少々不安はありましたが、不思議なくらい動揺もなく、むしろ安堵感が強かった様な気がします。

手術の前夜もグッスリ休めました。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

朝6時頃だったでしょうか？看護師さんに「一般病棟に移るのは何時頃ですか？」と尋ねると、「11時頃ですかね？」
エッ!!まだ5時間もこんな状態かと思ふと愕然としました。長時間じっとしている身のつらさ、経験された方はご存知かと思いますが、私は只々心の中でお題目とお経を読み続ける修行者になっていました。

誕生日に悪いところを全て取り、生まれ変わった身ですから残された人生を皆様方に少しでも御恩返しが出来ればと思っております。

留守中の家族は勿論の事、何かと心配をお掛けしました檀信徒の皆様方から厚く御礼申し上げます。

そして、この度の長期にわたる入院生活で先生方、そして看護師(男・女)さんたちの献身的な処置のお陰で今日を迎えられた事に心から合掌申し上げます。

合掌

(7月末日現在入院先で)

